

「キャッシュフロー計算書の表示項目が持つ意味についての研究」

2014年3月1日

日経メディアマーケティング(株)

古山 徹

< 報告概要 >

キャッシュフロー計算書は、2000年3月期から基本財務諸表として追加された表である。その作成方法（表示方法といったほうが適切だと思われるので、以下表示方法として扱う）としては、直接法と間接法が認められている。

直接法と間接法の違いは、営業活動からのキャッシュフロー（以下、これを **CFO** と呼ぶことにする）の表示方法にある。一口に言うと、営業活動からのキャッシュフローを相殺することなく収入と支出の総額で示す方法が直接法であって、収入と支出を相殺して純額で示す方法が間接法である。キャッシュフロー計算書には、**CFO** のほかに投資活動からのキャッシュフロー（以下、これを **CFI** と呼ぶ）、財務活動からのキャッシュフロー（以下、これを **CFF** と呼ぶ）の2つがあるが、**CFI** と **CFF** については直接法のキャッシュフロー計算書と間接法のキャッシュフロー計算書で違いはない。

直接法と間接法という表現はやや実態とは異なるイメージを思い起こさせる名前であるから、ここでは、直接法を総額表示、間接法を純額表示と呼ぶことにしよう。さて、総額表示で示された **CFO** と純額表示で示された **CFO** を比較すると、そこに示された項目名は似ても似つかないものになっている。これらを見る限りにおいて両者が同じ内容を示しているとは思えない、というのが初めてこの表を見た人やあまりなじみのない人がこの表を見た場合の正直な感想だろうと思われる。たとえ表を見慣れている人であっても、この2つの表が同じ内容を示していることを他人に説明する必要がでてきた場合は非常に困ってしまうのではないだろうか。

本報告では、総額表示の **CFO** と純額表示の **CFO** に示された項目に注目し、この2つの表に示された内容が同じものを示していることを合理的に説明する方法、両者の関係について合理的に示すにはどのように考えればよいかについて検討しそれを示してみたい。そのことを通じて、キャッシュフロー計算に示されたものがどのような内容を示しているのか、どのような意味を持っているかを改めて考えてみたい。

このような検討を行なうことは、キャッシュフロー計算書のデータの分析方法、その評価方法などを考える上でとても意味のあるものになると思われる。

1. 問題意識

CFS の直接法と間接法の表記の違いとそれぞれの項目の持つ意味について再検討を行なってみる。

間接法において表示されている EBT や DEPR は PL 上の EBT や DEPR と同じものか。同じ内容を意味しているのか。△R、△P、△I は比較 BS の差分と同じ内容を意味しているのか。

2. 直接法項目から間接法項目を導出する際の考え方

$$\begin{aligned} \text{収入} &= R_i + S - R_e \\ &= S - \Delta R \\ \text{支出} &= P_i + C - P_e \\ &= C - \Delta P \end{aligned}$$

3. 収益と収入、費用と支出の関係

収入は収益を原因とする結果、支出は費用を原因とする結果を示している。

4. 間接法表示項目の持つ意味

EBT は PL 上の EBT ではなく、収入の一部を成す売上と支出の一部を成す費用の一部の差分を意味する。DEPR は PL 上の DEPR ではなく、支出の原因となった費用の一部を意味している。

5. CFO の評価

CFO を評価するための基準は、次の 2 つ。

- ① CFO > 0
- ② CFO が無理なく生み出されているかどうか

①に関しては CFO が+か-かを見ればよい。

②に関しては、いわば CFO の質を見ようとするもので、原因から脚気に至る過程を要因分析しながら見ていく必要がある。この要因分析の部分では収入と収益、支出と費用という総額で表示された項目間の関係を考える必要がある。それゆえ EBT、DEPR、△R、△P、△I といった純額表示の項目では使いにくいといわねばならない。